

NPO 法人

第57号

芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。

～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1578

TEL 055-288-2345 FAX 055-288-2531 HP <http://ashiyasu.com> Mail afc3193@nus.ne.jp

登山教室報告「鳳凰山」

今年度1回目の登山教室は、6月6日から、1泊2日コースと2泊3日のゆったりコースに分かれ、鳳凰山薬師岳と観音岳を目指しました。今回は参加された皆さんからの嬉しい感想を掲載します！



薬師岳山頂

野澤 佐知子さん（荳崎市）

一昨年初めて鳳凰三山を縦走し、今回で2度目の鳳凰。前日の天候とは異なり、朝から快晴で、気温も若干高めで心躍る。南御室小屋を出発し、まずはガマの岩を目指す。ガマの岩では北岳、間ノ岳とくっきりと見え、まずは『ほう（鳳）～』と感嘆。鳳凰での展望を胸に、いざ薬師岳へ…。巨石の積み重なった砂払岳を越えると薬師岳小屋があり、花崗岩の白砂を登り切ると一気に視界が開け、青空に雪の残った白根三山が鮮やかに映え、『おう（鳳）～』とため息。しばし自然の美しさに酔いしれる。より美しく見える景色を期待しながら、そのまま観音岳への足を伸ばす。白根三山に加え、甲斐駒の姿も見え、またまた感動に浸る。

このところ仕事に悩みを抱えてきたが、鳳凰の自然の雄大さに比べ、ちっぽけなことを悩んでいると身を持って感じ、同行の方々の間人としての大きさ知識の豊富さ、体力に、私自身の勉強や努力がまだ足りない振り返ることができた。全て期待通りであり、人として多くのことを学べ、充実した登山…人生の教室2日間であった。

高山 徹男さん（静岡県）

長く、勾配のきつい山道を登る登る、ようやく萐平に着きました。「此処まで来れば、もう 少したよ」と最後尾の私を励ましてくれます。幸い、途中感じた足の痛みも、和らいでいました。南御室小屋に着いたのは、午後2時30分ごろ。芦安登山教室恒例の座学まで、少し時間が有ります。疲れた体をほぐし、一息ついてから座学が始まります。

初めて聞く、血中酸素濃度と高山病。出発前の、酸素濃度測定値 98、南御室小屋到着時の測定値 91、参加者みんなの測定値も問題ないという。血中酸素濃度の低下が、生命に関わる要因と云う。鳳凰山、名前の由来。地藏岳と観音岳の2山説。地藏、観音、薬師を併せて鳳凰山とする現在の3山説。ライチョウの絶滅危惧種と対策。夜叉神のたたりと出水川。興味深く、聞かせてもらいました、やがて雑談形式の懇親会へ。それぞれ皆さんの経験談や、失敗談に話が盛り上がります。山小屋の夜は早い。楽しい山行ができました。参加者、芦安ファンクラブ、スタッフの皆さんに、感謝感謝。

小泉 初恵さん(横浜市)

登山教室の初めての“ゆっくり”3日コースは足が遅い私には願ってもない企画でした。何年かぶりで観音岳にたてたのも気持ちにゆとりをもって歩けたおかげです。

南御室小屋の連泊もはじめてでしたが、小屋での語らいが、また楽しいものでした。なにしろファンクラブの方々には歴戦の強者ぞろい。豊富な山の知識や経験談に、すっかり引き込まれました。飲むほどに盛り上がり若き日の高校山岳部の思い出、さらにマッキンリーとか、アコンカグアとかにも話が及ぶのですから消灯時間が残念なくらいでした。

今回の新発見は最終日のオプションコースの辻山です。どこにでもありそうな平凡な名前だし、ほんの寄り道程度という感じでした。ところが到着したとたんいきなり大パノラマではありませんか。正面は白根三山と南アルプスの稜線、右手には前日たどった鳳凰山、思わず息をのむような絶景です。いくつもの頂、尾根、沢、そして雪形も、しっかり見えました。夜叉神峠からの登山道は何度も歩いていたのに、すぐそばにこんな楽園があるなんて知りませんでした。周りは風雪に耐え折れ曲がったハイマツ、ダケカンバ、シャクナゲに囲まれて足元にはコイワカガミがピンクの花をつけていて、なんとも好ましいところでした。また来たいと思ったのはもちろん、いつまでもこのままであってほしいと強く願いました。



新緑を楽しみながら

野田 恵さん(板橋区)

一度しか経験のない南ア、白根三山コースから地蔵のオベリスクと特異な白い砂をみて「自分には…」と思っていたのに思いがけないほど楽しく歩けました。すると欲がでて、「せっかくだから地蔵まで行けたら良かったな～」と行ってしまいました。まだまだピークハンティングの癖が抜けず、限界いっぱいまで歩き続けるという貧乏性が身についています。今後は、山の楽しみ方の種類を増やしていきたいなと思います。樹林帯が素晴らしかったです。

福田 孝史さん(調布市)

6月6日・7日の「第37回南アルプス・芦安登山教室」に参加した。登山教室というだけあって、ガイドに引率されてただ山に登るだけ、ないということに夜叉神登山口から登り始めて間もなく気付かされた。

うっすらと霧が包む樹林帯を登りながら、樹木や草花についての説明が芦安ファンクラブのガイドの方々から、時にユーモアを交えながら丁寧で分かり易くなされるのである。山の植生についての興味も知識も持たなかった私はここで早くも面食らった。登山歴3年目に入ったばかりの私といえば、これまで唯ひたすら山の頂きを目指すだけの実に稚拙な山登りをしていたということになる。登る足元にひっそりと可憐に咲く、それぞれ小指の先ほどもない小さな花々が、みだれた呼吸を整え、吹き出す汗を乾かし、疲れた肉体に癒しを与えてくれることを知った。また、ポイントポイントでその場所にまつわる歴史や民話を聞くことが出来たのも中々他にはないもので楽しむことができた。そうしているうちいつの間にか山を登ってしまっているのだから不思議だ。そうだ、これが山を楽しむ登山というものだ。山に出かけて行って日頃は見ることのない景色に、身体中で感動するという以外に、芦安ファンクラブのガイドの方々から語り授けてくれたような知識を少しでも多く携えて山々と向き合い触れることで、登山の醍醐味は一層増し、幅が拡大していくのだろう。その為の勉強が必要なのだということをつくづく感じたのだ。

ところで、眼下に広がる雲海は、晴れ渡って私たちに迎えてくれた薬師岳・観音岳山頂からの眺めを最大限に引き立たせていた。日本一の富士山、第2位の北岳、第3位の間ノ岳そこから農鳥岳、目を移すと甲斐駒ヶ岳に仙丈ヶ岳、そしてすぐ目の前には地蔵岳のオベリスク。素晴らしい大絶景！何という贅沢、奇跡に思えた。大パノラマを十二分に満喫して私たちが下山を始めた途端、山はガスの向こうにすっかり隠れて見えなくなってしまったのだ。観音岳から私たちが感動して眺めたあの景色こそ、人々の願いを見(観)て叶え、人々の声(音)を聞き届けてくださるという観音さまからの私たちへの最高のプレゼントだったに違いない。



雲の切れ間から…

鈴木 邦彦さん（相模原市）

夜来の雨が上がり、開校式は眩しい陽光の下で行われました。なにか幸先良い感じで、心躍ります。登る力に確信を持ってない私は「2泊ゆったり組」に申し込みました。男女それぞれ2名を井口さんと石川さんにサポートして頂く贅沢な布陣で心強い限りです。

登山口を8時過ぎに出発。いつもながら歩き始めの登りは我が身にはきついです。それでも鮮やかな緑の中、着実に歩を進めます。やがて夜叉神峠、山頂は雲で覆われ期待の白根三山の姿を見ることは叶いませんでした。小休止の後、堀内さんの峠に関する話をお聞きしたあと祠に詣で、再び登りです。南御室小屋まではずっと森の中で展望はきかないようですが、ハイライトは明日と思えば、さほど気になりません。天気予報では回復に向かううえ、同行のKさんは「パーフェクトな晴れ女」と自認されていますので、明日の晴れは疑いなしとしましょう。途中「ガマ岩」というポイントで北岳と間の岳が王者の片鱗を見せてくれました。これが明日はどう見えるのだろうと、そんな事ばかりが大きな期待とともに頭をよぎります。杖立峠で昼食、その後火事場跡で元気澆刺な学生と出会いました。



杖立峠にて

岡野 芳洋さん（南アルプス市）

鳳凰薬師岳観音岳登山教室の参加は2回目となりました。指導員のガイドのおかげで、普段単独の登山より、活動量の多い登山や難易度の高い登山ができ、安全に自分の力量を測りまた磨く、良い練習になります。

今回の参加では、植物好きな指導員や参加メンバーのおかげで、植物勉強が多くでき、（歩行速度がやや落ち後続の斑にはやや迷惑だったかも?）、楽しさが2倍に膨らみました。夜叉神の森—御室小屋間では、二人静や舞鶴草、車葉つくばね草、白花のヘビイチゴ、キンボウゲ、ツルキンバイ、クリンユキフデなどたくさんの植物に出会いました。特に針路には、茎や葉にも鋭い針があり驚かされました。「夜叉人峠 鳳凰三山の高山植物（芦安ファンクラブ編）」にも、ここまでおどろおどろしい針は表現されていけませんので写真も掲載しました。

蓼平を過ぎ午後2時過ぎに南御室小屋に到着しました。ゆっくりペースでしたので思いのほか疲れることなくホッとしました。私にとって初日のハイライトは何と言っても、休憩後の座学でありまして実に楽しく有意義でした。渡辺さん、堀内さん、石川さん、井口さんの個性あふれる話しぶり（本当に話のうまい方々です）と鳳凰山名論、夜叉神峠の由来、クライミングのアドバイスなど、普段はなかなか聞けない素敵なトピックばかりでした。加えて、座学のあとのサプライズは何と言っても「ざつぎょのマリネ」（岩魚だった?）、酸味のきいた美味は疲れた体にしみいりました。井口さんが前日釣ってこられたとのことですが、14尾も、奥様も大変だったのではないのでしょうか。ご馳走様でした。

ガイド料なし(?)で丁寧に対応していただいたことに深く感謝申し上げます。今回の日程は私のような高齢初級者にはとても親切な有難い内容です。もし可能なら、今後もこのようなゆったり志向のプログラムを組んでいただけたら、もっと山を楽しめるだろうと思います。いろいろ有難うございました。



座学の様子

また馬酔木についても有毒で鹿の食害がないことや、唯一の天敵の蛾、ヒョウモンエダシャクなど幅広いうんちく話でも大いにもりあがりました。後でネットで調べたら、なかなか美しい昆虫でした。いつか会いたいものです。また二日目の薬師から観音岳の行程では、お目当てのライチョウには出会えなかったが、ガスも晴れてすばらしい眺望に恵まれましたし、コイワカガミやキバナシャクナゲも多く見られ幸運な一日となりました。同行の皆様にも多謝。



ハリブキ

榎本 信子さん(国分寺市)

今回の登山教室は、前夜の雨にもかかわらず、当日は朝から青空に恵まれました。残雪と岩肌が美しく輝く白根三山を眺められて素晴らしい山行になりました。

私が参加しようと思ったきっかけは、親しい友人に勧められたからです。その友人夫妻は、何度か芦安の登山教室に参加した経験があり、このファンクラブのファンになっていました。実際、私も参加してみて、すっかりファンになりました。今までの登山の中で、これほど楽しい登山は初めてです。これほどの高い山ですから登るのはきつい筈です。ところが、全く辛く感じませんでした。美しい芦安の自然、隊長さんの絶妙な話術と副隊長さんの名進行のおかげだと思います。そして、教室の沢山の関係者の皆さんがとても親切で、丁寧に対応してくださった事がなにより嬉しかったことです。皆様、本当に有り難うございました。これからも、登山教室に是非参加させてください。

《苺平ー南御室小屋一座学》

登山口からずっと登り続けて、苺平に到着。ここからゆるやかに下ること30分で南御室小屋に着きました。



南御室小屋にて

そこは、山間の小さな平地で、明るく開け、ネットで囲われた花畑を中央に、広場、テント場、水場、トイレがあり、一段高いところに小奇麗に手入れされた小屋がありました。一休みの後、芦安ファンクラブ会員による座学が始まりました。登山でこのような講義を受けるのは初めてでした。内容は①安全登山について ②鳳凰三山の歴史 ③ライチョウについて ④御勅使川と信玄堤、でした。

《懇親会》

朝、芦安山岳館に集合した時は、お互い初対面の参加者でしたが、一步一步山を登っていく中で少しずつ会話が生まれて来ました。そして、座学でファンクラブの会員が、いかに南アルプスに熱い想いを寄せているか、会員の方々の人柄の素晴らしさを知るうちに、参加者達も古くからの仲間であるかのように打ち解けて来ました。さらに、その盛り上がりは懇親会へと続き、ベテラン会員の山の話、山友のことなどの経験談を聞くうちに、夜8時の消灯時間まで話は尽きませんでした。



楽しい懇親会



薬師岳小屋にて



観音岳にて

芦安山岳館企画展が始まりました！

南アルプスユネスコエコパーク登録記念事業

自然児「犬塚 勉」絵画展

「犬塚 勉」は1949(昭和24)年川崎市に生まれました。幼いころより自然に親しみ、その素晴らしさやメッセージを、持ち前の繊細な感覚や研ぎ澄まされた美意識で絵を描くことによって表現し、見事に自然の本質をとらえ、山に登ることで自然と同化しながら私達に伝えてくれていましたが、1988(昭和63)年9月23日「もう一度、水を見てくる」と家族に言い残して、谷川連邦赤谷川本谷を抜け切った稜線で、悪天候に見舞われ遭難、38才の短い生涯でした。彼の残した数々の作品と人となりは、NHK「日曜美術館」で紹介され高く評価されました。

自然と同化しながら、密度の濃い登山を実践していた犬塚が最も愛したのが「北岳」でした。南アルプス市ではこのような山や自然に対するひたむきな姿勢や、あたかも南アルプスの使者として、その素晴らしさを私たちに伝えてくれた自然児「犬塚 勉」の、まさにユネスコエコパークの理念に基づいて描かれた絵画展を、陽子夫人の協力を得て南アルプス芦安山岳館で開催します。

南アルプス市芦安山岳館館長 塩沢 久仙

会 期 平成27年6月20日(土)～平成27年10月25日(日)
会 場 南アルプス市芦安山岳館 (入館料 大人500円 小人250円)
山梨県南アルプス市芦安芦倉 1570 ☎055-288-2125
開館 9時～17時(水曜・年末年始休館。夏期は無休)



南アルプスユネスコエコパーク登録一周年記念企画展
自然児 犬塚 勉 絵画展

新入会員紹介

今年度、新たに2人の会員を迎えました！フレッシュなメンバーを加え、ますます活動を充実させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします！

折口 史明（おりぐち ゐみあき）

はじめまして！今年3月に家族4人で埼玉から芦安に越してきました折口史明と申します。今回縁あって、現副会長の大瀧要造様が芦安で24年間営まれたペンションらんたんを二代目ALPENガストホフらんたんとして引き継がせていただくことになりました。私たち家族も、南アルプス、特に芦安の大自然と山が大好きでいつか住んでみたいと思っておりまして、家族の賛同と周りの方々の暖かいご支援のおかげで思いのほか早く夢が実現できましたことに感謝したいと思います。

サラリーマン生活30年、転勤25回、海外生活6年の中で、なかなか大好きな山と親しむこともできませんでしたが、これからできる限り時間を取って南アルプスの山々を楽しんでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。それと同時に、ファンクラブの一員としてこの大変貴重な南アルプス芦安の自然

環境を守っていききたいと思っておりますので家族ともども末永くご指導をお願いいたします。

ALPEN ガストホフ らんたん 折口 史明・美智子

南アルプス市芦安芦倉 1589-8 055-288-2531 <http://alpen-lantan.com>



伊藤 陽一（いとう よういち）

はじめまして、伊藤陽一といいます。登山歴は、今年で8年目です。

最初は余暇活動として近くの山を気軽に楽しんでいましたが、だんだん面白くなって、奥秩父の山から服装など装備を揃え始めました。日帰りで登り、山の面白さを感じはじめ、次の山は？という思いがシーズンを通して起こるようになりました。北アルプスの燕岳に登った時に、雨に降られ、初めて山小屋に泊まることになり、いろいろな人と知り合いになり、山小屋や山の良さを

体験できました。その後、北アルプス表銀座ルートや、南アルプスの鳳凰三山、北岳、甲斐駒ヶ岳に登り、昨年念願だった奥穂高岳に登り、今日に至っています。いろいろな山を経験した結果、それぞれの自然の形態の違いを痛感し、今後は、地元の間々を大切に、他県の人々に紹介していきたいと思っております。

クラブのことは、まだ、わからない事が沢山ありますが、頑張りますのでよろしくお願いいたします。

